

総称人称の you の意味と機能

荒瀬 美佐子

1. はじめに

総称人称 (generic person) の代名詞として we, you, they, one, he が挙げられるが、この中で最も我々日本人英語学習者にとって理解しがたい you について、英語母語話者 (イギリス人) による日本文学の英語訳と、英語非母語話者 (日本人) による日本文学の英語訳を比較対照することによって、そのふるまい、意味・機能上の特性を考察するとともに、どこがどう我々の理解の妨げになっているのかを探る。また、日本人による英語訳に総称人称の you が使われていない例について、代わりにどのような英語表現が用いられているのかを調べ、その傾向、および、そこから見えてくる you の特性についても探る。you をとおして見えてくる、日本語の総称表現の特性についても併せて考察する。

2. 先行研究とデータの判別基準

総称人称の you とはどのようなものであるか、その概略をつかむために、まず、3つの先行研究を紹介する。

- (1) 荒木, 他 (1985: 1099-100)によると, you は口語や解説的な書き言葉において, 総称人称の one に相当する語として用いられるが, oneほど堅くなく相手に親しみをもって語りかけたり, 相手を同調させようとしたりする感じがあるという。また, you は原則的・原理的なことを述べる場合によく用いられ, さらに if, as if などに導かれる副詞節でもよく用いられるという。
- (2) Quirk, et al. (1985: 354): Generic you is

typically an informal equivalent of one. You retains something of its 2nd person meaning: it can suggest that the speaker is appealing to the hearer's experience of life in general, or else of some specific situation. Sometimes, the reference is to the speaker's rather than the hearer's life or experiences.

- (3) 巻下 (1997: 29-33)は, 総称人称の one に相当する口語表現として日常的に使われるもので, 和訳の場合は特定の語句に訳さないのが普通で, you を用いる心理の底には, 自分の経験を一般化したい気持ちと, 相手の共感を期待する気持ちがあるとしている。そして, 日本人なら 1 人称の I で表現するであろうところでさえ英語話者ならば you で表現し, 一般論という側面が弱くなり, 自分の経験にも言及することがあると指摘している。また, you が一般的真理に言及する場合や諺の中によく用いられていることについても触れている。

上記(1)(2)(3)が you の意味・機能に関して共通して指摘している 3つの事柄, 「聞き手の共感を得る」「話し手の経験について言及する」「一般的真理や原理・原則的なことを述べる」をもとに収集したデータを分類しようとしたところ, 判別に悩む事例が少なからず出てきた。そこで, 3項目間に重複部分ができるだけなくなるよう, 基準を何度か見直した結果, 「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」「(b)自分の経験から一般論を導く」「(c)一般論や原則を言及する」の3項目を, 本稿でのデータ分析の基準とすることとした(「見聞きしたこと」も「経験」に含む)。収集したデータをこの3つの基準を

もとに判別し、日本語の原文と対比させつつ、youの意味・機能について考察する。

ところで、巻下(1997: 29-33)が「日本人なら1人称のIで表現するであろうところでさえ英語話者ならばyouで表現し、一般論という側面が弱くなり、自分の経験にも言及することがある」(上記(3))と指摘しているが、巻下(1997)の挙げている例を見て、総称表現をどう捉えたらよいのか、難しいのはむしろ日本語の方ではないかと考えるようになった。その例が下記(4)であるが、巻下(1997)はこの例について「表現上は主語がyouとなつてはいるものの、実質的な主語はIであり、文意においても一般論という側面が弱くなっている」と指摘しているが、「うかがってみなければ、わかりません(聞いてみなければ、わからない)」というのは、一般論ではないだろうか。しかし、巻下(1997)のいうように「あなたの話を聞いてみなければ、私には分からない」という個別の解釈もできる。話者本人は果たしてどちらの解釈を念頭に置いているのだろうか¹⁾。

- (4) a. 「うかがってみなければ、わかりませんわよ。どうぞ、おっしゃってみて…」
b. “You won’t know if you don’t ask, so please go ahead.”

日英語の発想の違いを探る一環として、巻下(1997)は総称人称のyouについて取り上げているのだが、(4)の個別の解釈は日本語でのみ可能ということで片付けてもよいのだろうか。英語でも誰かに何かを尋ねた直後に“I won’t know if I don’t ask, so here goes…”などと1人称を使って同じことを表現できるが、日本語と違って、同一文で二通りの解釈ができるというわけではない。本稿では、日本語の総称表現と総称人称のyouとの比較も視野に入れてデータを考察する。

また、上記(2)に総称人称のyouが2人称的な意味合いを持っているとの指摘があるが、それでは、総称人称のyouと2人称のyouは、どのようにして見分けたら良いのだろうか。文脈で容易に判断できる場合がほとんどであるが、若干例で、総称人称のyouであるのか、読者に語りかけている2人称の

youであるのか、もしくは、作中人物が会話相手に向けた2人称のyouであるのか、判断に迷うものがあった。その場合は、下記(5)に従い、“anyone, including you and me”で置き換えられないものは2人称のyouであるとした。

- (5) Declerck (1991: 265) : *You has much the same meaning as one, but is less formal and less abstract. It can be paraphrased as ‘anyone, including you and me.’*

3. データ収集の方法

分析・考察に用いたデータは、以下の3点から収集した²⁾。

夏目漱石(1906)「坊っちゃん」『こころ坊っちゃん』文春文庫。

Natsume, Soseki. Umeji Sasaki, trans. (1996 (1922)) *Botchan*. Tokyo: Charles E. Tuttle.

Natsume, Soseki. Alan Turney, trans. (1978 (1972)) *Botchan*. Tokyo: Kodansha International.

まず、より多くの総称人称のyouを使用していると推測できる英語母語話者(イギリス人)による英語訳Turney(1978(1972))から、日本語の原文と丹念に読み合わせることによって、総称人称のyouをすべて拾い集めた。そして、該当箇所が英語非母語話者(日本人)による英語訳Sasaki(1996(1922))³⁾ではどのように表現されているか調べるという方法を採用した⁴⁾。

Turney(1978(1972))には全部で89箇所、総称人称のyouが使われていたのに対し、Sasaki(1996(1922))では、そのうちわずか20箇所しか総称人称のyouは使われていなかった。89箇所のうち多くは主格のyouであったが、目的格のyou、所有格のyourについても考察の対象とした。本稿では、文レベルではなく、談話レベルでのyouのふるまい、意味、機能を考察することを目的とするため、youの使用箇所は談話レベルで数えた⁵⁾。つまり、その談話中のyouの出現回数が何回であれ、「1箇所」と

数えた。

4. 両翻訳者ともyouを使用した例の考察

ここでは、Turney (1978 (1972)), Sasaki (1996 (1922)), 双方で総称人称のyouが使われている例（全部で20例見つかった。）について考察する。

まず、総称人称のyouの現れる談話がどのような日本語の表現からきたものであるかを調べ表にしたも

のが、次の表1である⁶⁾。「2. 先行研究とデータの判別基準」で紹介した「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」「(b)自分の経験から一般論を導く」「(c)一般論や原則を言及する」「(見聞きしたこと)も「経験」に含む)の3項目をもとに、それぞれのyouの意味/機能を判別した結果も示した。

巻下 (1997: 29-33)が総称人称のyouについて「和訳の場合は特定の語句に訳さないのが普通で」(上

表 1

通し番号 ⁷⁾	Turney ページ	Sasaki ページ	夏目 (末尾の数字はページ)	youの意味/機能
1 (8)	25	30	道中をしたら茶代をやるものだ (と聞いていた)。茶代をやらないと粗末に取り扱われる (と聞いていた)。21	(c)
2	28	34	文学士だけに御苦労千万な服装をしたもんだ。24	(a)
3 (7)	41	46	(天井はランプの油煙で燻ぼってるのみか、) 低くって、思わず首を縮めるくらいだ。34	(b)
4	42	47	一時間あるくと見物する町もないような狭い都に住んで、35	(b)
5	42	48	天麩羅を食うと減らず口が利きたくなるものなり36	(a)
6	45	49	温泉は三階の新築で上等は浴衣をかして、流しをつけて八銭ですむ。その上に女が天目へ茶を載せて出す。37	(c)
7	49	53	(どうも狭い所だ。) 出てあるきさえすれば必ずだれかに逢う。40	(b)
8	63	68	沖釣りには竿は用いません。糸だけでげす51	(c)
9	66	71	こうしてね、糸が水底へついた時分に、船縁のところの人差しゆびで呼吸をはかるんです。食うとすぐ手に答える。53-54	(c)
10	94	103	あんな気立てのいい女は日本中さがして歩いたって滅多にはない。80	(a)
11	106	115	こういうおれでさえ上等を奮発して白切符を握ってるんでもわかる。90	(a)
12 (6)	112	121-22	滅多に喧嘩も出来ないと思った。94	(a)
13	116	126	(赤シャツの言うところによると) 船から上がって、一日馬車へ乗って、宮崎へ行って、宮崎からまた一日車へ乗らなくては着けないそうだ。99	(c)
14	121	131	妙なところへこだわって、ねちねち押し寄せてくる。104	(a)
15	141	152-53	人があやまったり詫びたりするのを、真面目に受けて勘弁するのは正直過ぎる馬鹿と言うんだらう。あやまるのも仮にあやまるので、勘弁するのも仮に勘弁するのだと思えば差し支えない。122	(a)
16	145	159	そうして人が攻撃すると、(僕は知らないとか、露西亞文学だとか、俳句が新体詩の兄弟分だとか言っ、) 人を煙に捲くつもりなんだ。127	(a)
17	149	163	隣も後ろも一尺五寸以内に生きた人間がいて、その人間がまた切れる抜き身を自分と同じように振り舞わすのだから、よほど調子が揃わなければ、同志撃ちを始めて怪我をすることになる。131	(c)
18	150	163	隣のものが一秒でも早過ぎるか、遅過ぎれば、自分の鼻は落ちるかもしれない。131	(c)
19	158	173	嘘について、事実これこれだと話しゃ、すぐ書きき38	(a)
20	160	175	つまり新聞屋にかかれたことは、うそにせよ、本当にせよ、つまりどうすることも出来ないものだ。140	(c)

記(3))と指摘するように、日本語の原文に総称人称のyouに相当する語が明示されていない例がほとんどである。そして、その大半が総称表現となっている。

youの意味・機能に関して、具体例を見てみよう。次の(6)は主人公が油断できない人物についてあれこれ描写している場面であるが、夏目(1996 (1906))の原文には、明示されていないが、1人称単数の主語が隠されている。一方、英語訳では、Turney (1978 (1972)), Sasaki (1996 (1922))ともに、「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」youを使用している。すなわち、巻下 (1997: 29-33)のいう「日本人なら1人称のIで表現するであろうところでさえ英語話者ならばyouで表現し・・・」(上記(3))の一例であるが、英語訳に総称人称のyouを用いることによって、赤シャツが誰でも手を焼くような人物であることをうまく表現している。

(6) You'd have to be careful when and how you fought him.—[Turney (1978 (1972)): 112]⁸¹⁾

Pick a quarrel with such a man, and you will reap only regret.—[Sasaki (1996 (1922)): 121-22]

(赤シャツのようなやさしいのと、親切なのと、高尚なのと、琥珀のパイプとを自慢そうに見せびらかすのは油断が出来ない、) 滅多に喧嘩も出来ないと思った。—[夏目 (1996 (1906)): 94]⁸²⁾

次に、「(b)自分の経験から一般論を導く」youの例を見てみよう。(7)は、話者(主人公)が散歩中にたまたま見つけた蕎麦屋について説明している場面である。話者は「天井がどれほど低いのかというと、誰でも首を縮めなくてはならないほど低い」ということを総称人称のyouを使っていっており、典型的な(b)の例である。これも、先の例同様、「日本人なら1人称のIで表現するであろうところでさえ英語話者ならばyouで表現し・・・」(上記(3))の一例であると思われるが、では、このyouを1人称で置き換えたら、どのような違いが生じるのだろうか。この場合は、「天井が低かったから、私は首

を縮めた」という単なる報告にとどまり、「誰にとっても低い天井」というニュアンスはなくなるという⁸⁰⁾。

(7) The walls were grimy with soot, and the ceiling, which was also black from the smoke of an oil-lamp, was so low that you involuntarily ducked your head as you walked about.—[Turney (1978 (1972)): 41]

The walls were all black with soot. The ceiling smouldering with the smoke from the petroleum lamp was so very low that you would unconsciously duck.—[Sasaki (1996 (1922)): 46]

壁は煤で真黒だ。天井はランプの油煙で燻ぼってるのみか、低くって、思わず首を縮めるくらいだ。—[夏目(1996 (1906)): 34]

次に紹介する(8)は、「(c)一般論や原則を言及する」youの例である。日本語でも総称表現となっている。「道中をしたら茶代をやるものだ」「茶代をやらないと粗末に取り扱われる」双方とも、総称表現である。南(1993)が(9)のように指摘しているが、(8)の前半はまさにこの例である。英語訳でも、Turney (1978 (1972)), Sasaki (1996 (1922))ともに、主文にIを、埋め込み文(従属文)に総称人称のyouを使っているが、埋め込み文は主人公にこの話を聞かせた人物の視点で書かれており、(c)のyouである。

(8) I had heard that you were expected to tip when you were on a trip, and that, if you didn't, you received bad service.—[Turney (1978 (1972)):25]

I had been told that you should give a tip when out traveling; that you would never be welcome, without giving a money present on your putting up at a hotel.—[Sasaki (1996 (1922)): 30]

道中をしたら茶代をやるものだと聞いていた。茶代をやらないと粗末に取り扱われる

と聞いていた。(こんな、狭くて暗い部屋へ押し込めるのも茶代をやらないせいだろう。見すばらしい^な服装をして、ズックの革靴と毛^け緩子の^こ蝙蝠傘を^こ提げてるからだろう。) — [夏目(1996 (1906)): 21]

- (9) 南 (1993: 189) : 一般的にいて、末尾が～コトダ、～モノダ、～ワケダのような形の文は、全体が総称的な正確をもつ。

上記(8)の総称人称のyouを1人称のIやweに置き換えると、どういう違いが出てくるのか考えてみよう。まず、すべてIに置き換えると、Turney (1978 (1972))の方は、茶代(心づけの金)が話者だけに適応されるもののように聞こえ、Sasaki (1996 (1922))の方は、何か話者が自分だけ特別なアドバイスを受けたような印象を与えるという。weに置き換えた場合も同様で、Turney (1978 (1972)), Sasaki (1996 (1922))ともに、グループ旅行で、そのグループだけに適用される茶代に関する特別なアドバイスを受けたような印象を与えるという。Iやweにした場合は、Turney (1978 (1972))の最後の部分、“you received bad service”を、“I/we would receive bad service”にしなければならないという違いも出てくる。総称人称のyouには、その性質上、「たとえ話」という大前提があるためwouldがなくても文法的に間違いにはならないが、Iやweには、それがないためである。

5. 総称人称のyouに代わる表現

前節ではTurney (1978 (1972))の89の総称人称のyouの使用例のうち、Sasaki (1996 (1922))でも同様にyouが使われていた20例について取り上げた。それでは、残りの69例では総称人称のyouの代わりにどのような表現が用いられているのだろうか。代わりに使われている表現の傾向を探ることによって、何が見えてくるのではないだろうか。総称人称のyouに代わる表現を調べまとめたのが次の表2である。表2には、「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」「(b)自分の経験から一般論を導く」

「(c)一般論や原則を言及する」「(見聞きしたこと)も「経験」に含む)の3項目をもとに、Turney (1978 (1972))におけるyouの意味/機能を判別した結果も示した。また、原文である夏目(1996 (1906))の日本語表現が総称表現であるかどうかについても記した。「φ (1人称単数)」は1人称単数の主語が隠されているという意味である。

ここでも、前節で紹介した20例同様、日本語の原文に総称人称のyouに相当する語が明示されていない例がほとんどである。そして、やはり前節の20例同様、原文は総称表現であることが圧倒的に多く、69例中52例(75%)で総称表現となっている。原文に1人称単数が隠されている例は、69例中17例(25%)である。そのうち、約半数の9例で、Sasaki (1996 (1922))もそのまま1人称単数を使って英語にしている。その他の例では、表を見て明らかのように、総称人称のyouは使っていないにしても、何らかの総称表現を使用している例がほとんどであり、one, he, nobody, man, human, people, those等、総称の意味をもった名詞、代名詞で翻訳されている例が25例、「物・事柄を主語にした文」「無生物主語の構文」「there is/are構文」が使われている例が合わせて15例、受動態が使われている例が9例等々となっている。

夏目(1996 (1906))に1人称単数の主語が隠されていて、Sasaki (1996 (1922))もそのまま1人称単数を使って英訳している9例の意味・機能の内訳と見てみると、「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」youが6例、「(b)自分の経験から一般論を導く」youが1例、「(c)一般論や原則を言及する」youが2例となっている。この内訳から、(a)のyouが最も1人称単数に近いyouであるといっているかもしれない。

それでは、Turney (1978 (1972))が総称人称のyouを使って英訳した部分に、Sasaki (1996 (1922))は代わりにどんな表現を使っているのか、具体例を見てみよう。まず、次の(10)では、夏目(1996 (1906))には1人称単数の主語が隠されている。そして、Turney (1978 (1972))では「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」youが使用され、読者を誘い込むような語り口になっている。それに対し、

表2 「Turney」, 「Sasaki」, 「夏目」の欄の末尾の数字はページ

通し 番号	Turney youの意味/機能	Sasaki	夏目
1	(c) 9-10	there is/are構文 14	総称表現8
2	(a) 13	1人称単数 16	φ (1人称単数) 10
3	(c) 15	one, those 20	総称表現13
4	(c) 18	物・事柄を主語にした文 24	総称表現16
5	(c) 21	one 26	総称表現18
6	(c) 21	1人称単数 27	φ (1人称単数) 19
7	(b) 23	one 28	φ (1人称単数) 20
8	(a) 29	nobody 35	φ (1人称単数) 25
9	(b) 29	受動態 35	φ (1人称単数) 26
10 (16)	(c) 33	1人称単数38	φ (1人称単数) 28
11	(b) 35	受動態 40	総称表現29
12	(a) 36-37	human, he 41	総称表現30
13	(a) 38	受動態 43	総称表現32
14	(c) 38	nobody, he 43	総称表現32
15 (13)	(a) 38	1人称単数 43	φ (1人称単数) 32
16	(c) 42	物・事柄を主語にした文 47	総称表現35
17	(c) 42	one 48	総称表現36
18	(b) 45	物・事柄を主語にした文 49	総称表現37
19	(b) 45	受動態 50	総称表現37
20	(c) 48	one 52	総称表現39
21	(c) 54	受動態 59	総称表現44
22 (10)	(a) 55	物・事柄を主語にした文 60	φ (1人称単数) 45
23	(c) 55	nobody, fellow 60	総称表現45
24	(c) 59	φ 65	総称表現48
25	(c) 61	no one 66	総称表現50
26	(b) 62	nobody 68	総称表現51
27	(c) 62-63	nobody 68	総称表現51
28	(c) 63	nobody 69	総称表現52
29	(a) 68	形容詞(-able)で総称の意を表現74	総称表現56
30	(a) 73	people, those 79	総称表現61
31	(c) 73	boys, them 79	総称表現61
32	(c) 73	there is/are構文 79	総称表現61
33 (12)	(c) 73	物・事柄を主語にした文 + 2人称 79-80	総称表現61
34	(c) 75	one 81	総称表現62
35	(c) 76	he 81	総称表現63
36	(b) 77	1人称単数 82	総称表現63-64
37	(c) 77	物・事柄を主語にした文 83	総称表現64
38	(a) 79	φ 85	総称表現65
39	(a) 81	命令文 (2人称) 88	総称表現68
40	(a) 82	one 89	総称表現69
41	(c) 83	受動態 90	総称表現70
42	(a) 84	受動態92	φ (1人称単数) 71
43	(a) 85	物・事柄を主語にした文92	総称表現71
44	(a) 85	an observerを主語にした文 93	総称表現72
45	(a) 86	one 93	総称表現72

46	(a) 89	1 人称単数 98	φ (1 人称単数) 75
47	(a) 91	φ 100	総称表現77
48	(c) 92	婉曲のcould + 受動態 101	総称表現78
49	(a) 96	man 106	総称表現83
50 (14)	(a) 102	1 人称単数 112	φ (1 人称単数) 87
51	(a) 108	one 118	総称表現92
52 (15)	(a) 108	nobody 118	φ (1 人称単数) 92
53	(a) 108	1 人称単数 119	φ (1 人称単数) 92
54	(c) 109	物・事柄を主語にした文119	総称表現93
55	(a) 112	受動態 121	総称表現94
56	(a) 112	1 人称単数 122	φ (1 人称単数) 94
57	(b) 114	one 123	総称表現96
58	(a) 116	wouldで総称の意を表現126	φ (1 人称単数) 98
59 (11)	(a) 116-17	mayで総称の意を表現126	φ (1 人称単数) 99
60	(a) 119	無生物主語の構文129	総称表現102
61	(c) 123	物・事柄を主語にした文133	総称表現106
62	(b) 128	物・事柄を主語にした文139	総称表現111
63	(a) 131	物・事柄を主語にした文143	φ (1 人称単数) 114
64	(a) 132	状況描写の文144	総称表現115
65	(a) 140	one 152	総称表現122
66	(a) 141	φ 152	総称表現122
67	(c) 144	無生物主語の構文157	総称表現125
68	(a) 149	形式主語itの構文163	総称表現130
69	(a) 160	受動態175	総称表現140

Sasaki (1996 (1922))では、“reflection”という抽象名詞を主語とする文が使われ、坦々とした印象となっている。

- (10) When you came to think about it, I'd really picked a great place to live in.—[Turney (1978 (1972)): 55]

Reflection was not a happy one. Why had I come to such a wretched place at all?— [Sasaki (1996 (1922)): 60]

考えてみると厄介な所へ来たもんだ。— [夏目(1996 (1906)): 45]

次の例でも夏目(1996 (1906))が1人称単数の主語を使っているのに対し、Turney (1978 (1972))は「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」youを使用している。Sasaki (1996 (1922))では、「事実に基づいた可能性(factual possibility)」を表すmayを用い総称表現としている。

- (11) It made you imagine a place populated half by monkeys and half by men.—[Turney (1978 (1972)): 116-17]

Monkeys and men may be living there together in equal number.—[Sasaki (1996 (1922)): 126]

猿と人とが半々に住んでるような気がする。— [夏目(1996 (1906)): 99]

次の(12)では、夏目(1996 (1906))の原文は総称表現となっており、Turney (1978 (1972))でも「(c)一般論や原則を言及する」youが使われている。荒木, 他 (1985: 1099-100)が「youは原則的・原理的なことを述べる場合によく用いられ、さらにif, as ifなどに導かれる副詞節でもよく用いられる」(上記(1))と指摘しているが、この例がそうである。これに対し、Sasaki (1996 (1922))では事情が違い、2人称のyouが使われている。まず、最初のyou(波線部分)であるが、これは、談話内容からも聞き手にあてられた2人称のyouであることは明らかであるが、(5)で

紹介した“anyone, including you and me”で置き換えられないことから、2人称のyouであることが分かる。そして、これに続くyouも聞き手に向けられたyouであると判断するのが妥当であろう。

- (12) “Of course it’s a good thing for you not to do anything wrong; but unless you realize that even if you don’t do anything wrong yourself, you can’t rely on other people to do the same, you’ll come to grief.”—[Turney (1978 (1972)): 73]

“To be doing right is, of course, good as you say, but that alone will never save you from the snares people set for you, if you fail to know how bad they are.”—[Sasaki (1996 (1922)): 79]

「無論悪いことをしなければいいんですが、自分だけ悪いことをしなくっても、人の悪いのがわからなくっちゃ、やっぱりひどい目に逢うでしょう。」— [夏目(1996 (1906)): 61]

以上、この節ではTurney (1978 (1972))が総称人称のyouを使って英訳した部分に、Sasaki (1996 (1922))は代わりにどんな表現を使っているのか、具体例を考察した。

6. 総称人称のyouと日本語の総称表現

ここでは、前節で紹介した、Turney (1978 (1972))では総称人称のyouを使って英訳しているのに対し、Sasaki (1996 (1922))では別の表現が使われていた69例が実際にどのような表現になっているのか、特に日本語の総称表現および1人称単数主語の文との関係に焦点をあて、具体例を見ていく。

まず、(13)は、夏目(1996 (1906))の原文では1人称単数の主語が隠されており、Sasaki (1996 (1922))も1人称単数(波線部, my)を使って英訳している例である。Turney (1978 (1972))では、「自分だけでなく、誰が飲んでも苦い濃い茶」ということで、「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」総

称人称のyouを使い、それだけ苦い茶であることを効果的に訴えている。

- (13) I had, in fact, asked him to buy me some tea the previous evening, but this tasted horrible. It was too bitter and strong. One cup and you felt as though your stomach would seize up. I asked him to buy some tea that wasn’t so bitter next time.—[Turney (1978 (1972)): 38]

I had indeed asked the host to buy me some tea last night, but such bitter strong tea would not do; one cup of the beverage he made seemed to contract my stomach. “Please get me some weaker tea.” I said to him. “Yes, if it pleases you, sir,” was his insinuating answer, and he again helped himself to one more cupful of tea.—[Sasaki (1996 (1922)): 43]

実はゆうべ茶を買ってくれと頼んでおいたのだが、こんな苦い濃い茶はいやだ。一杯飲むと胃にこたえるような気がする。こんどからもっと苦くないのを買ってくれと言ったら、かしこまりましたとまた一杯しばって飲んだ。— [夏目(1996 (1906)): 32]

次も同じような例である。日本語の原文に1人称単数の主語が隠され、そして、Sasaki (1996 (1922))でも1人称単数のIが使われている。しかし、Turney (1978 (1972))では、「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」youが用いられ、「誰がどう考えても」という意味になっている。

- (14) However you looked at it, I couldn’t get along without Kiyo.—[Turney (1978 (1972)): 102]

The more I thought about it, the more desirable it became to live with Kiyo, my old nurse.—[Sasaki (1996 (1922)): 112]

どう考えても清と一所でなくっちゃ駄目だ。(もしあの学校に長くでもいる模様な

ら、東京から呼びよせてやろう。) — [夏目(1996 (1906)): 87]

次の例でも夏目(1996 (1906))には 1 人称単数の主語が隠されているが、Turney (1978 (1972))では、「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」youが使われ、「誰が見ても不人情なことをしそうにない」ことを言っている。Sasaki (1996 (1922))では nobody を使って総称の意を表している。日本語の原文の「どうしたって」という言葉と、両翻訳者が使っている総称の表現がうまく適合していて、違和感はない。

(15) There's nothing so unreliable as people. You'd never have thought, looking at the Madonna's face, that she'd have been capable of being so heartless, but, nevertheless, there she was, a beautiful woman, being cruel.—[Turney (1978 (1972)): 108]

Indeed, no creature is more treacherous than man. Looking at that Venus-like face, nobody would think it possible for the owner of those beautiful features to do anything heartless.—[Sasaki (1996 (1922)): 118]

本当に人間ほどあてにならないものはない。あの顔を見ると、どうしたって、そんな不人情なことをしそうには思えないんだが— [夏目(1996 (1906)): 92]

(13)(14)(15)の例は、巻下 (1997: 29-33)のいう「日本人なら 1 人称の I で表現するであろうところでさえ英語話者ならば you で表現している (上記(3))」例である。この 3 例のように日本語の原文に 1 人称単数の主語が隠されている例で、英語訳に 1 人称単数ではなく「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」you を使うことによって発話内容を相手に効果的に印象づけることができる。

ところが、次の(16)では少し事情が違っている。同じく、夏目(1996 (1906))には、1 人称単数の主語が隠されているが、この例では、巻下 (1997: 29-33)

の「一般論という側面が弱くなり (上記(3))」という指摘は当てはまらず、Turney (1978 (1972))では「(c)一般論や原則を言及する」you が使用され一般論化されている。話者に限らず、「起きたばかりのときに突然こんなはなしを持ってこられたら、誰でもうろたえてしまう」という一般論をまず持ち出し、その後、“it threw me completely”と自分の話に戻っている。つまり、起きたばかりのときは頭がはつきりしないことは誰にも当てはまる習性であって、話者だけの特性ではないからであるが、どうしてわざわざ一般論を持ち出して視点を移動させているのだろうか。Sasaki (1996 (1922))では、日本語の原文同様、1 人称単数の主語を使っている。

(16) To have someone start straight in with, “Sorry about this morning. Your timetable is. . .” when you have just opened your eyes is disconcerting, and it threw me completely.—[Turney (1978 (1972)): 33]

No sooner had I sprung up than he, with an inserted clause of apology about his disrespectful behavior toward me at our last interview at school that morning, began to talk about the books and the number of hours I had to teach. I was not a little perplexed at his abrupt way of business.—[Sasaki (1996 (1922)): 38]

(こんどは夢も見ないでぐっすり寝た。この部屋かいと大きな声があるので眼が覚めたら、山嵐がはいって来た。) 最前は失敬、君の受持ちは・・・と人が起き上がるや否や談判を聞かれたので大いに狼狽した。— [夏目(1996 (1906)): 28]

最後に、今回のデータ外のものではあるが、興味深い例を一つ挙げる¹¹⁾。(17)では英語訳よりもむしろ日本語の原文の方に注目されたい。いたずらをした生徒達に腹を立てた主人公(話者)の長々と続く独白の一部であるが、原文の「手前のわるいことは悪かったと言ってしまわないうちは罪は消えないもんだ」の「手前」は総称人称であると思われる(そ

の後に出てくる「手前達」は2人称である。「～もんだ(ものだ)」という文末表現もこの文が総称表現であることを裏付けている(上記(9)を参照)。「広辞苑 第五版」「大辞林 第二版」ともに、「手前(手前の訛)」は1人称もしくは2人称の代名詞であるとしているが¹²⁾、ここでは明らかに総称人称の代名詞として機能しているように思われる。日本語の2人称も総称人称として使えるというわけである。Sasaki (1996 (1922))でもmanやheが使われ総称表現となっている。ところが、Turney (1978 (1972))では2人称のyouを使って、生徒達に向けた発話の形で英訳されている。ただし、この場合は、実際に生徒達に言ったのではなく、あくまでも主人公の独白として語られているのだが。

- (17) “You know what you did was wrong,” I thought. “And what you did stands until you apologize. If you had any sense of what’s right you’d go to bed, feel sorry for what you’ve done, and come and apologize in the morning. The least you can do is be ashamed of yourselves and go to sleep quietly.—[Turney (1978 (1972)): 56]
- No crime could be canceled before a man apologized, confessing what he had done was wrong. His conscience would tell him he had done wrong. A right-minded man would go to bed and repent there from the bottom of his heart and come to ask forgiveness.—[Sasaki (1996 (1922)): 61]
- 手前のわるいことは悪かったと言ってしまわないうちは罪は消えないもんだ。わるいことは、手前達に覚えがあるだろう。本来なら寝てから後悔してあしたの朝でもあや

まりに来るのが本筋だ。—[夏目(1996 (1906)): 45]

7. 統計情報

本稿では、「(a)自分の経験をもとに相手の共感を期待する」「(b)自分の経験から一般論を導く」「(c)一般論や原則を言及する」の3つの基準をもとにデータを判別したが、全データ89例中、(a)が42例(47%)、(b)が12例(14%)、(c)が35例(39%)であった。表3に示すように、この割合は、Turney (1978 (1972))でのみyouが使われていた場合と、Turney (1978 (1972))、Sasaki (1996 (1922))双方でyouが使われていた場合で、ほとんど差がなかった。有意な差が認められれば、そこから何かが読み取れるはずであったが、意外にも僅差であった。

8. おわりに

英語での会話中、相手が使った総称人称のyouを、一瞬、2人称のyouだと受け取り、自分のことを言われていると思い、ドキッとした経験はないだろうか。次の瞬間、総称人称のyouだと気づき、安心したり、内心赤面したりした経験はないだろうか。こんなことがきっかけで、総称人称のyouについて調べてみようと思うようになった。英語母語話者の友人に聞いてみたところ、総称人称のyouと2人称のyouを取り違えてドキッとしたりすることはないそうだ。ただ、わざと取り違えた振りをして、相手からかたたりすることなどはあるという。

本稿で見てきたように、英語では総称人称で表現することが相応しい文脈で1人称を使ってしまうと、「特別に自分(達)だけ」という含意が思いがけず発生してしまう。つまり、むしろ気を付けなく

表3

	Turneyのみyou		Turney, Sasakiともにyou		計	
(a)	9例	45%	33例	48%	42例	47%
(b)	3例	15%	9例	13%	12例	14%
(c)	8例	40%	27例	39%	35例	39%
	20例	100%	69例	100%	89例	100%

てはならないのは、1人称の使い方の方である。日本語では主語はあえて言わないことが自然であることが多いので、1人称と総称人称の違いや区別を意識することは少ない。我々日本語母語話者は総称人称に慣れていないのではなく、1人称表現も総称表現も形態上は同一のため、特に意識することなく、この2つを行き来しているということである。しかし、英語での会話中、「誰でもそうだけど、私も」「私もそうだけど、誰でも」と総称人称を使うべきところに、1人称を使ってしまいがちなのは事実である。我々の意識の中で、Declerck (1991: 265)のいう“anyone, including you and me” (上記(5))の“me”の部分が、英語母語話者と比較して、大きい、もしくはより前面に出ているのではないだろうか。こんなところに、総称人称のyouに対する我々の理解を妨げる要因があるのではないだろうか。

ところで、筆者にとっても総称人称のyouはいまだに不可解だという意味で、本稿では「我々日本人英語学習者」という表現を何度か使ったが、“we Japanese”という言い方も英語圏の人々に嫌われる表現の一つである。“we Japanese”とつい言ってしまう「我々日本人」と総称人称のyouが苦手な「我々日本人」は同じところから来ているのである。

注

- 1) 「聞く」ではなく、「うかがう(伺う)」という謙讓語(間接尊重語)を使い、聞き手に対して敬意を表しているが、「何事も伺ってみなければ、分かりませんから」などの例が明らかに一般論であるように、謙讓語の使用からは判断できない。
- 2) Sasaki (佐々木梅治)の英語は、今日の英語と比べてかなり古めかしい。よって、今回使用したものは1996年に出版されたペーパーバック版第36刷であるが、いつ書かれた英語であるかを明示するために、あえてSasaki (1996 (1922))という記載方法を採用することとした。Turneyのものは1972年に訳されたものであるが、今回使用したものは1978年版のペーパーバックである。よって、Turney (1978 (1972))とした。夏目漱石の原文についても同様に夏目(1996 (1906))とした。
- 3) Sasakiは当時としては並外れて英語に堪能ではあったが、英語非母語話者である。Sasakiがどのような人物で、どのようにして英語を身につけたか等、是非とも知りたく、あれこれ調査に手を尽くしたが、残念ながら、1917年から1918年(大正8年から9年)にかけて、『中外英字』(月2回の発行)に『坊っちゃん』の英訳関係の仕事をしていること以外、何も情報は得られなかった。
- 4) 逆にSasaki (1996 (1922))のyouの使用例から、該当箇所がTurney (1978 (1972))ではどのように表現されているか調べることによって、別の発見があるかもしれない。また、youの使用頻度の差も正確につかめる。しかし、残念ながら、この調査には膨大な時間が要求されるため、これについては別の機会に譲りたい。
- 5) 「談話レベルで」と断ったが、実際は、一談話につき一文のみに総称人称のyouが現れる例が圧倒的に多かった。
- 6) 夏目の原文の記載は、談話内容を理解できる最小限の長さにとどめた。また、youの意味・機能を判断するのに妨げになる部分については()に入れた。例えば、本文でも紹介した、下の(8)では、日本語の「と聞いていた」の部分は、“I had heard,” “I had been told”にあたる部分であり、表では()に入れた。
- (8) I had heard that you were expected to tip when you were on a trip, and that, if you didn't, you received bad service.—[Turney (1978 (1972)): 49]
I had been told that you should give a tip when out traveling; that you would never be welcome, without giving a money present on your putting up at a hotel.—[Sasaki (1996 (1922)): 53]
道中をしたら茶代をやるものだと聞いていた。茶代をやらないと粗末に取り扱われると聞いていた。—[夏目(1996 (1906)): 21]
- 7) 本稿で紹介した用例には、通し番号欄にその用例番号(()書きの数字)を記した。
- 8) 用例中の総称人称のyouに施した下線はすべて筆者による。
- 9) 夏目の原文については、文脈情報提供のため、TurneyやSasakiの英語訳に比べやや長めに引用したものもある。その場合は、その部分を()に入れた。
- 10) ネイティブ・スピーカーによる判断は、すべて、同僚のMichael Shawback氏(立命館大学理工学部)にお願いした。
- 11) ここで紹介する(17)は、Turney (1978 (1972))では総称人称のyouが使われていない。そのため、出発点としてTurney (1978 (1972))での総称人称のyouの使用例を集めた今回のデータには含まれていない。
- 12) 【広辞苑 第五版】(1998): 手前 [代名詞] ① (1人称) 自分。自分のことをへりくだっていう語。わたくし。② (2人称) 目下の相手を指す語。そち。汝。汝。手前 (テマエの訛) [代名詞] ① (1人称) 自分。わたくし。② (2人称) 相手を卑しんでいう語。おまえ。

参考文献

- 荒木一雄, 大沼雅彦, 豊田昌倫. 1985. 『英語表現辞典 第二版』研究社出版.
- Chafe, W. 1970. *Meaning and the Structure of Language*. University of Chicago Press.
- . 1994. *Discourse, Consciousness and Time*. University of Chicago Press.
- Declerck, R. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Kaitakusha.
- Fludernik, M. 1996. *Towards a 'Natural' Narratology*. Routledge.
- 卷下吉夫. 1997. 「翻訳にみる発想と論理」『日英語比較選書1:文化と発想とレトリック』研究社出版.
- 松村明編. 1995. 『大辞林 第二版』三省堂.
- 南不二男. 1974. 『現代日本語の構造』大修館書店.
- . 1993. 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店.
- . 1997. 『現代日本語研究』三省堂.
- 野村真木夫. 2000. 『日本語のテキスト:関係・効果・様相』ひつじ書房.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- 新村出編. 1998. 『広辞苑 第五版』岩波書店.